

## 第49回神戸電鉄粟生線活性化協議会

日時：令和5年5月31日（水）  
午後1時40分～午後2時50分  
場所：三木市立市民活動センター 3階 大会議室

### ○事務局

失礼します。定刻となりましたので、ただいまから第49回神戸電鉄粟生線活性化協議会を開催させていただきます。

私は、協議会事務局の三木市都市整備部の部長をしております●●と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

失礼ですが、ここよりは着座にて進めさせていただきます。

それでは、協議会の開会に当たりまして、協議会会長の仲田三木市長から御挨拶を申し上げます。

仲田会長、よろしくお願いいたします。

### ○会長

皆さん、こんにちは。

令和5年度の第1回目の協議会ということでございます。令和4年度の事業報告、また、歳入・歳出決算、あるいは、令和5年度の取組方針、また、予算等について、審議いただくこととなります。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

また、後ほど話題として少し出てくるかと思いますが、復興しました三木駅がありますが、三木駅の下り駅舎及び駅前広場、いわゆるロータリーが兵庫県のひょうご県民ユニバーサル施設に認定されたということで、障がいがあるがなかろうが、誰もが利用しやすい駅、空間ということで認定されたということも御報告をさせていただきたいと思っております。

簡単ですが、開会の御挨拶とさせていただきます。

最後まで忌憚のない意見をお出しいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

### ○事務局

ありがとうございました。

それでは、会議次第2、委員紹介に移らせていただきます。

お手元の配布資料のうち一番後ろにあります協議会規約の4ページ目、別紙1の名簿を御覧ください。

名簿のうち朱書きの委員におかれましては、人事異動などによりまして前回協議会から変更があった委員となっております。変更があった委員の御紹介をさせていただきます。

まず、兵庫県神戸西警察署交通第一課長、●●様。●●様につきましては、今回、御欠席とお伺いしております。

続きまして、兵庫県小野警察署交通課長、●●様。

### ○●●委員

小野警察署の●●です。どうぞよろしく申し上げます。

○事務局

続きまして、神戸商工会議所参事役、●●様。本日は、御欠席とお伺いしております。

続きまして、兵庫県立三木東高等学校生徒指導部長、●●様。本日につきましては、代理出席として●●様に御出席いただいております。

○●●委員代理

どうぞよろしく申し上げます。

○事務局

続きまして、オブザーバーとしまして、国土交通省近畿運輸局鉄道部計画課長、●●様。

○●●オブザーバー

●●でございます。よろしく申し上げます。

○事務局

続きまして、兵庫県北播磨県民局県民交流室長、●●様。本日につきましては、代理出席として県民商工観光課班長、●●様にお越しいただいております。

○●●オブザーバー代理

よろしく申し上げます。

○事務局

続きまして、神戸市西区総務部地域協働課長、●●様。代理出席として●●様にお越しいただいております。

○●●オブザーバー代理

よろしく申し上げます。

○事務局

以上、今回より変更となりました委員の皆様でございます。

また、今回、御欠席の委員は、名簿の上から●●様、●●様、●●様、●●様、●●様、●●様、●●様、●●様、オブザーバーとして●●様、●●様は御欠席とお伺いしております。

つきましては、本日の委員の出欠状況といたしまして、本協議会の委員25名のうち出席は18名であり、過半数以上の出席をいただいていることから、協議会規約第8条第4項の規定により本会議は成立していることを御報告いたします。

それでは、これからの進行につきましては、仲田会長にお願いしたいと思えます。

仲田会長、よろしくお願いいいたします。

○会長

それでは、会議次第に基づいて進めさせていただきます。

次第の3です。神戸電鉄粟生線地域公共交通計画の策定についてということで、事務局から説明をお願いします。

○事務局

失礼します。三木市の交通政策課の●●と申します。本日はよろしくお願いい

たします。

以下、着座の上、御説明させていただきます。

そういたしますと、お手元に資料1、神戸電鉄粟生線地域公共交通計画の策定についてということで、御準備いただきたいと思います。

こちらにつきまして、前回の協議会が昨年12月27日ということでございまして、そちらにおきまして御承認を賜りましたこの計画については、予定どおり策定をしておりましたので、この場で御報告をさせていただくということでございます。

資料につきまして、3の計画期間とありますが、令和4年12月、計画策定日から令和10年3月、令和9年度末までという計画としております。

5の計画の目標・理念、それから、6の計画の基本方針ということで、これは前回の協議会でも御協議、御説明させていただいたとおりでございますが、あらためて確認させていただきます。

目標・理念につきましては、住む人、訪れる人が快適に利用でき、まちづくりとともに発展する持続可能な公共交通の創造。みんなで考え、あしたへつなぐ、未来へのチャレンジという副題でございます。

計画の基本方針としまして(1)から(3)まで3本柱という立て付けにしております。鉄道を軸とした地域公共交通サービスの安定的な維持・確保、まちづくりと連携した地域公共交通サービスの構築、それから、市民、行政、事業者等の連携による地域公共交通の活性化ということでございます。

また、7に計画の主な施策、事業、それから、数値目標とございますが、会議の時間の都合上、細かな御説明は割愛させていただきたいと思っております。

お手元の配布資料に計画の概要版と計画の本編を付けておりますので、この会議の中で、適宜、御参考にしていただけたら幸いに存じます。

ひとまず、資料1については以上とさせていただきます。

○会長

前回、御承認いただきました計画について、さきほどありましたように、お手元に概要版と交通計画の本編を入れておりますので、また、御覧をいただければというふうに思いますが、何か御意見、御質問等がありましたら、挙手にてお願いをしたいと思います。

よろしいですかね。

(「なし」の声あり)

○会長

また、あれば、後ほどでもけっこうです。後で思い付いたことがありましたら、また、よろしくお願いをいたします。

それでは、次第の4、議事事項ということで、移らせていただきます。

議事1号、2号、事業報告並びに歳入・歳出決算、監査については関連しますので、併せて、議事とさせていただきます。

まずは、一括して事務局のほうから説明願います。

○事務局

そうしますと、お手元に資料2と資料3を御準備いただきたいと思います。

資料2が議事1号、令和4年度の協議会の事業報告についてということでございます。まずは、こちらのほう、少しお時間を頂戴しまして、御説明させていただきたいと思っております。

こちらの資料のつくりですけれども、一番上のオレンジ色の網掛けですけれども、方針1、鉄道を軸とした地域公共交通サービスの安定的な維持・確保ということでございまして、一番左側の縦列、これが施策、その次に、主な事業ということで配置しております。これは、さきほど御説明させていただきました新しい計画の枠組みに従って分類をしているということでございます。主な事業の右側に整理番号を付けておりまして、こちらのほうを説明の中で用います。一番右側が令和4年度の実績ということでございますので、御理解のほうをよろしく願います。

そうしますと、中身のほうですけれども、まず、事業番号1、2とあります。こちらは環境に配慮した安全で安定した輸送サービスの確保ということでございまして、神戸電鉄様のほうで線路設備等の更新、車両の修繕等の実施をしたということでございます。

それに対しまして、2番、国、県、沿線市が協調して支援を行ったということでございます。

続きまして、事業番号3番から6番のところでございます。

こちらは、駅、駅前空間の整備ということでございまして、令和4年度の実績といたしまして、三木駅の駅前広場（ロータリー）、こちらのほうの供用開始をしたということで記載を入れております。

駅前広場の整備に当たりまして、乗降場、歩道、それから、駐輪場、こういったところの整備、それから、三木駅の中には三木市観光協会が新たに移転して業務を行っているということでございます。

続きまして、7番から9番ということで、こちらは計画に記載しております自転車との連携という部分でございます。

特に、9番ですけれども、これは協議会の事業でございまして、粟生線サイクルトレインというイベント列車を運行したということでございます。

それから、10番から13番、こちらはバリアフリー、あるいは、多言語対応といったところでございます。

10番、さきほど、冒頭、会長挨拶にもございました三木駅下り駅舎及び駅前広場（ロータリー）のひょうご県民ユニバーサル施設の認定ということでございます。こちらについては、後ほど報告事項として御説明させていただきたいと思っております。

また、11番ですけれども、鉄道駅バリアフリー料金制度の導入ということで、神戸電鉄様におかれましてこちらの料金制度の導入を決定されたということがありました。

続いて、そのページの一番下、14番、パーク・アンド・ライド駐車場の活用ということでございまして、令和4年度の実績といたしまして、パーク・アンド・ライド利用台数の合計が1万2,536台ということでございました。これは令和3年度、一つ前の年度ですけれども、実績としては1万1,128台とい

うことをごさいますて、約13%増加しているということをごさいます。

1ページめくっていただきまして、事業番号15番、16番ということで、こちらは駅や駅周辺を活用したにぎわい創出という項目をごさいます。

15番につきましては、地域住民におきます駅、駅周辺を活用した取組ということで、日曜朝市、イルミネーション、生け花、花植え、清掃活動などを実施いただいております。そちらのほうを記載しております。

また、16番ですけれども、粟生駅に附属するコミュニティースペースに新しい店舗が出店されたということです。

それから、17番、18番をごさいます。こちらは適正な運行形態、持続可能な運営形態の検討ということで、こちらについては三木市の独自の施策であります。昼間時間帯の志染駅～三木駅区間の増便運行、こちらのほうを継続させていただいております。

その右側のページ、今度は基本方針2、まちづくりと連携した地域公共交通サービスの構築ということでごさいます。

19番から22番、こちらについては住宅地の開発や魅力の向上ということで、沿線市3市におきます鈴蘭台幹線北区間、市営押部谷住宅、栄住宅の再編、あるいは、青山7丁目団地再耕プロジェクト、それから、垂井南土地区画整理地内分譲を継続ということで、沿線3市の取組を記載しております。

続く23番から25番、今度は企業用地の開発や企業誘致の推進ということでごさいます。

神戸複合産業団地、あるいは、ひょうご情報公園都市第2期工区の整備、それから、ひょうご小野産業団地の企業誘致ということで、こちらのほうも沿線3市の企業用地開発、企業誘致推進の取組を記載しております。

続く26番、27番ということでごさいます。観光資源の活用や観光資源への誘客促進ということでごさいます。

26番については、三木市観光協会が新たに三木駅に入居したということでごさいます。さっそく、みきエキバルということで、地域の飲食店と連携したイベントを開催いただいております。また、ひまわりの丘公園リニューアルオープンというような取組もございました。

続く28番から31番、これは企画乗車券の発行ということでごさいます。28番は、神戸電鉄さんの企画乗車券、それから、29番については協議会でやっております「おもてなしきっぷ」の販売ということで、販売枚数としては4,697枚ということでした。その前の年度の令和3年度は3,698枚ということで、コロナ禍ということではありましたが、約1,000枚増ということで数字を伸ばしております。

また、30番、31番は、神戸市さんの神鉄シーパスワン、神鉄シーパスワンplus、それから、神鉄シーパスワン北神と、三木市のほうで言いますと、31番、神戸電鉄福祉パスということで、引き続き、販売を継続しておるということをごさいます。

ページめくっていただきまして、33番から35番ということで、こちらは駅から住宅地へのアクセス交通の確保・充実ということをごさいます。こちらに沿

線3市の取組を記載しておりますが、35番におきましては、らんらんタクシーの運行を開始ということで、新たな取組ということで小野市さんのほうで事業を進めておられます。

それから、36番から38番、こちらは駅から企業用地へのアクセス交通の確保・充実ということです。

37番としまして、三木工場公園におきまして、市内初となる自転車専用通行帯、自転車レーンの供用を開始したということをお挙げています。

また、38番、ひょうご小野産業団地を結ぶコミュニティーバスのルートの運行を検討ということで、小野市さんのほうで検討されていらっしゃいます。

それから、39番、40番、こちらが駅から観光資源へのアクセス交通の確保・充実ということで、40番ですけれども、三木駅におきましてレンタサイクル事業を検討ということでございます。後ほどの報告事項でも挙げさせていただきますが、実際に今年度に入りましてから、レンタサイクル事業を開始しておりますので、後ほど御報告をさせていただきます。

今度は右側のページに目を移していただきまして、基本方針3の市民、行政、事業者等の連携による地域公共交通の活性化という項目でございます。

43番から48番ということで、地域住民の日常的な公共交通の利用を促す取組の推進ということです。43番については、協議会でも報告させていただきましたが、栗生線開業70周年ということで、ヘッドマークとしんちゃんと巡る栗生線歴史紀行列車の運行というのを神戸電鉄さんのほうで実施されております。

それから、少し番号は飛びますけれども、51番、52番ということで、新たな公共交通利用獲得のための情報発信ということです。三木市においてはおでかけガイドという総合時刻表を継続発行と、それから、52番のほうですけれども、神鉄のトレインフェスティバル、三木金物まつりということで、コロナ禍でなかなか開催していなかった各種イベントが再開されるに当たりまして情報発信のほうにも力を入れております。

それから、53番から55番ということで、栗生線の「あした」のための学びの場づくりということでございます。

53番ですけれども、七夕装飾列車、クリスマス装飾列車の運行ということで、沿線の幼稚園、保育所にも協力いただいてポスターを制作したり、そういったような取組を実施しております。

1ページめくっていただきまして、ページとしては最後になりますが、56番、57番ということです。こちらは栗生線の活性化を支える地域住民、組織、団体への支援ということで、栗生線サポーターズクラブの取組を記載しております。サポーターズクラブの会員数につきましては56番のとおりで、57番については、具体的な取組といたしまして、風鈴の装飾でありますとか、鉄道模型運転会、あるいは、写真の撮影会といったところで、ボランティアのかたの企画によりましてイベントを実施しているということでございます。

最後、59番から63番、これが利用のきっかけとなる乗車イベントの実施ということでございます。

61番、62番、63番ということで、こちらは協議会の取組ということでござ

ございますが、神鉄トレインフェスティバル、あるいは、粟生線サイクルトレイン、それから、粟生線スタンプラリーの開催ということで、令和4年度におきまして事業を実施させていただいたということでございます。

続きまして、資料3のほうを御準備いただきたいと思えます。

資料3につきましては、令和4年度の協議会の歳入歳出決算ということでございます。上半分が歳入、下半分が歳出ということで資料を作らせていただいています。

予算につきましては、負担金が1,430万円、これは神戸、三木、小野、神戸電鉄、こちらの負担金の合計ということでございます。予算が1,430万円、決算額が1,359万7,012円ということでございます。

それから、補助金ということで、こちらは計画策定に対する国庫の補助金でございます。こちらは予算額、決算額ともに84万7,950円ということで、合計しまして、決算額としましては1,444万4,983円ということでございました。

今度、歳出のほうでございますが、1の運営費、こちらは国要望活動事業費等の運営費ということで充てておりました。予算額20万円に対しまして、実績としては9万8,740円ということでございます。

また、事業費につきましてですけれども、利用促進事業費920万円の予算に対しまして、実績としては884万9,126円ということでありました。

また、計画策定事業費につきましては、予算574万7,950円に対しまして、計画策定事業費549万7,113円ということでありました。

右側に補足の説明としまして主な事業の実績を入れておりますので、御覧いただけたらと思えます。

決算額としましては、合計1,444万4,983円ということになりました。

こちらにつきまして、監査報告がございます。監査報告につきましては、神戸市様のほうからお願いをしたいと思います。よろしく申し上げます。

○●●委員

当協議会の幹事を仰せつかっています神戸市の●●でございます。

令和4年度の協議会の歳入歳出決算につきまして、関係書類等の照合をいたしました結果、いずれも適正に処理されているということを確認いたしましたので、御報告をいたします。

○会長

ありがとうございました。

それでは、議事1号、議事2号について何か御意見等ありましたら、マイクをお持ちしますので、挙手にてお願いいたします。

はい、どうぞ。マイクが行きます。

○●●委員

この施策を見ますと、たいへんよい施策だと思います。でも、この粟生線につきましては、やはり乗ってもらおうということ、「乗れば残りますよ」「乗らなければ残りませんよ」と、これをもっと前に押し出すような施策なり、PR、その

辺をもうちょっと考えたらどうかと思います。

僕も毎年京都へ行くんですけども、お得な切符を、あるとき友達に勧めたんですが、「そんな切符あるのかな」と、そういう反応がけっこう多いです。行き届いていないと、PRが。それをもっと沿線住民に知らせたら、それがもっと大事なんと違うかなと。それ、格好はいいんですけども、やっぱり乗ってもら、もうそれが一番。それをもっと全面に出したら。

それと、第一に言われるのが、運賃が高い、本数が少ない。それもずっと前に「なんで運賃が高いのか」「スピードが出えへんのか」、それを説明した文を出してくださいと。出してもらいました。それで1回で終わりました。それをもっとPRしたい。「ああ、こんなところに電車を敷いてくれているのか」と、「感謝して乗らないかなあ」と、まあ、理想やけどね。こういう考え方に持っているのが、一番いいんと違うんかなと思っています。

なかなかこの施策につきましては難しいと思いますが、そういうことを頭に置いて、やっぱり、こういう会議、進めていきたい、いければなと思っています。

以上です。

○会長

貴重な意見、ありがとうございました。

たしか京都、古都なんか切符ってありますね。私も存じ上げております。よく乗って残そう神戸電鉄というキャッチフレーズでやっておりますが、あらためて今おっしゃるように、我々、一人一人が意識して沿線住民にもっと意識していただくということは重要だと思っています。

また、本数が少ないとか、運賃が高いとか、それはいろんな意見もあろうかと思っています。もっと上げろという人もおられますし、神戸電鉄のほうの社内の事情もあるということで、三木市は三木市だけでちょっと今説明がありましたが、増便している部分もあります。やはり、みんなのできることをやっていくことが大事なのかなというふうに思います。

何か、神戸電鉄様、御意見はありますか。よろしい。どうぞ。

○●●委員

神戸電鉄の●●です。いつもお世話になります。

それについては、今、ローカル鉄道ということでいろんな話題が上がっているかなと思います。そういうところを見ましても、やはり、我々、鉄道会社というのはどちらかという大量輸送をすることによって、きちっと運営が確保されるところがやはり少なくなってくると、いわゆる鉄道設備とか、そういうもののベースになるところにコストが掛かってしまって、なかなか安い運賃で運営するというのは現実的に厳しいという状況であります。

また、できるだけ多く走らせたいんですけど、現実的には一編成を走らせて、それをちゃんと動かそうとしても、乗っているお客さんが1両に数人ということであると、どうしてももう少し効率性を狙うというのがある。そういう意味でいくと、さきほどおっしゃっていただいたように多くのかたに乗っていただいたら、おのずとプラス側に相乗効果が出てくるんだと思うんですけど、沿線、やは

り、少子高齢化等を含めて、全体的に少し規模が小さくなっているの、やはり、鉄道という意味での大量輸送というところをうまく生かしていない状況です。そのあたりについて活性化協議会でいろいろ議論していただいて、また、さきほどおっしゃっていたように、乗って残そうということで、ますますいろんな形で我々も営業活動も進めていきたいと考えております。

以上です。

○会長

今、世の中で議論になっているJRと比べて、比べてはいけないんですけども、そういう意味ではたくさん乗っていただいているんですが、やはり、おっしゃるように、少子高齢化ということで、人口が、これ、全国的にでありますけども、人口が減ってくる。でも、残そうと思えば、やはり●●さんのおっしゃるように、できるだけ乗る機会を増やしていくということが大事だと思いますので、さきほどおっしゃったように、乗って残そうというキャッチフレーズを、皆さん、御理解いただけるのであれば、また、事務局、全面的に出すということで、皆さん、どうでしょう、御意見は。

乗って残そうをもっとPRしようということではありますが、よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

異議はなさそうですので、じゃあ、事務局のほうでまた原案を考えて、また、次のときにでも、もっとPRしましょう。

○事務局

はい。

○会長

ありがとうございます。

ほかに御意見はございますか。

また、あれば、後ほどということで。

どうぞ。

○●●委員

意見ではなくて、資料3については、このままで承認だと思っていて、資料に少し説明のほうをお願いしたいなと思うんですけど、パーク・アンド・ライド、13%増えたというお話であったんですが、何かその背景を分析されていて、今後、更に増やすための模索の検討を、もし何か議論があれば、教えていただきたいなと思うんですけど。

それと、サポーターズクラブの会員がなかなか最近うまく伸びてない感じがするんですけど、これについて、何かこの会議も使いながら増やすことができないかなと思うんですけど、何かそういう議論が始まろうとしているかどうか、そのあたりについて教えていただければありがたいと思うのと、それとともに、協議会の事業として栗生線利用促進活動補助金制度があるんですが、昨年度は申請件数がゼロだったんですが、これはコロナの影響か何か、ちょっと背景があるのか、そのあたりを教えていただければありがたいなと思ってます。

最後は、これは、もし、今日は小野高校の先生が来られているので、駅ホーム

で小野高校の放送部さん、放送を続けていただいているありがたいなと思うんですけど、何か生徒さんからこの活動について何か言っているお話があれば教えていただきたいなど。ちょっとこれは突然なので、もし何かあればということでもよろしくお願ひしたいと思ひます。

○会長

はい。

では、まず事務局どうぞ。

○事務局

ありがとうございます。

まず、パーク・アンド・ライド駐車場ということで御質問いただいております。

説明の中で、令和3年度が1万1,128人と、令和4年度が1万2,536人ということで、プラス約13%ということで、御案内をさせていただいております。

ところが、実はコロナ前ということでいいますと、令和元年度の実績ですけれども、1万5,226台ということで、そこから比べると、令和4年度の実績というのは約18%マイナスということでございます。

こちらのほうはひとえに、これは、神戸電鉄粟生線の利用者数、後ほど御報告もあるかと思ひますが、コロナ禍で利用者数が下がっている。それに連動するような形でパーク・アンド・ライドの利用者数が増減しているというふうに見ております。

特に、ちょっと補足という形にはなりますけれども、駐車台数というのがこの表にあります。駐車台数として、資料としては2万9,217人ということで挙げている。2万9,217台が駐車場を利用して、そのうちパーク・アンド・ライドとして神戸電鉄を使われたかたが1万2,536台であったというような資料なんです。

さきほど、令和元年度1万5,126のパーク・アンド・ライドの利用がありましたということだったんですけども、この令和元年度の駐車台数というのを見ますと、これが3万438台ということでした。そうすると、パーク・アンド・ライドの利用台数はさきほどお伝えしたとおり、18%下がっているんですけども、駐車場の利用台数としては4%減ということで、非常に令和元年度と比べても今の数字、だいぶ戻ってきているかなと。

その一つの要因として、三木駅の駐車台数が伸びているということで、三木駅のほうが再建ということで、非常に、ロータリーもできて、鉄道だけじゃなくて、バスの接続もよくなっている。そういったところもあるのかなと。こういったところをバスだけじゃなくて鉄道のほうにも乗り換えていただくというところが必要になってくるのかなと、そういうふうに、ちょっと、これは事務局のほうの中での検討ベースですけれども、考えております。

それから、サポーターズクラブの会員数の話をいただいております。

サポーターズクラブのほうの会員数としては資料2の一番最終ページで御案内させていただきましたが、一般会員が781人ということでございます。こちら

のほう会員数、年々やや減少傾向にございます。特に、コロナ禍でこの会員者数が減っているということがございました。特に会員になられますと、1日フリーパス券が付いてくるんですけども、中には、そのフリーパス券を使って外出したいということで、また、粟生線を応援したいという気持ちも込めて、この会員になっていただいているかたが非常に多かったと。こちらのほうも、コロナ禍でなかなか外出できないなというところで、会員登録を少し控えていらっしゃったかたが多かったのかなと、そういうふうに見えています。

ただ、このまま放っておいても、会員というのが、じゃあ、伸びていくのかということ、まだまだ疑問なところがございますので、このあたり、まだ今の段階で具体策はないんですけども、また、掘り起こしといいますか、会員の増強というところが必要になってくるのかなというふう考えております。

それから、粟生線の利用促進活動に対しまして補助をするということで、補助の制度を今作っております。実は、コロナ禍までは例年2件から3件程度、申請がございまして、イベントを実施いただいたり、それに対して協議会から補助したりするという、こういったところで進めてまいりました。

こちらのほうもさきほど少し御指摘ありましたけども、コロナ禍でやはりイベント自粛というところが大きく影響しています。令和2年度に入りましてから申請件数が上がってきていないということがございます。

ただ、これからいろんなイベントの再開という機運がございますので、こういったところで協議会との連携というのを図ってまいりたいというふう考えております。

事務局のほうからは以上でございまして、あと、小野高校さんの件がございますので。

○会長

小野高に関しては、何か事務局ありますか。

○事務局

そうですね。小野高校さんの生徒さんから直接いろいろお話を聞いたりというのは、実はちょっと足元ではできておりませんが、この計画では高校生とのモビリティ・マネジメントの強化ということで、1つ、柱に挙げております。引き続き、積極的に連携を図っていきたいと考えています。

○会長

●●先生、よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

ほかに御意見、御質問等がありましたら。よろしいですかね。

(「なし」の声あり)

○会長

ありましたら、また、後ほどでもけっこうでございます。

ないようでしたら、この後は、議事第1号及び議事第2号について御承認いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

異議なしということで、よろしいですかね。

(「異議なし」の声あり)

○会長

ということですので、1号、2号は承認をされました。

続きまして、議事3号、議事4号、令和5年度の取組方針並びに歳入歳出予算についても関連がありますので、一括して議事に入りたいと思います。

これも、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

そうしますと、続きまして、資料4と資料5をお手元に御準備いただきたいと思っております。

まずは、資料4ということで、議事3号、令和5年度の協議会の取組方針案ということでございます。

1としまして、計画に基づく主な取組ということで、こちら、新しい計画の基本方針ごとに取りまとめております。

(1)、こちらが基本方針1に分類する事業でございますが、アとありますけれども、鉄道安全輸送設備等整備事業費補助による支援ということで、こちらは継続事業としております。これまでもにおいても協議会といたしまして、国への要望活動を実施して、側面的な支援も行っております。こちらのほうを継続していきたいということ考えております。

それから、イですけれども、駅的美装化の実施、こちらは内容発展としております。これまでの駅の利用者の快適性の向上のための駅的美装化は引き続き実施するということですが、本年度におきましては、地域住民や駅利用者などと一体となった取組になるように内容を工夫していきたいなど、そういうふうを考えております。

また、ウといたしまして、パーク・アンド・ライド駐車場のキャッシュレス化、こちらは新規事業としております。パーク・アンド・ライド駐車場、こちらの利便性を高めて利用を促進していきたいということで、パーク・アンド・ライド駐車場精算機、こちらのキャッシュレス化に取り組んでいきたいというふう考えております。

(2)基本方針2の分類ですけれども、アといたしまして、鈴蘭台のまちづくり、こちらは神戸市さんの継続事業ということでございます。鈴蘭台幹線北区間の整備を進めていくということでございます。

続いて、イですけれども、新たな住宅地や企業団地の整備に向けたまちづくりということで、こちらは三木市の継続事業としております。内容といたしましては、青山7丁目団地再耕プロジェクト、こちら、基本構想に基づきまして交流エリアの事業者募集や造成工事を行っていく。また、ひょうご情報公園都市、こちら、三木市と兵庫県企業庁の共同事業でございますけれども、こちらの第2期工区へのアクセス道路の地形測量、それから、地質調査、こちらのほうを実施してまいります。今、資料の裏面のほうに入っております。

ウのひょうご小野産業団地企業利用促進、小野市様の新規事業ということであります。産業団地の整備としましては県内初となる県市共同事業ということで、こちらのほう、産業団地の完成、全8区画の進出企業の決定ということで、この団地と粟生線駅を結ぶコミュニティーバスの運行を検討していくということでござ

います。

エとオにつきましては、協議会事業ということで入れております。

エにつきましては、地域イベントと連携した新たな企画乗車券の検討ということで、こちらは新規事業としております。地域のにぎわいづくりや公共交通の利用促進のため、地域で開催されるイベントと連携した新しい企画乗車券を検討していきたいというふうに考えております。

オについては、鉄道及びバスの連携によるお得な企画乗車券の検討ということで、こちらは内容発展としております。既存の企画乗車券を活用しながら、地域の飲食店、観光スポット等とも連携しながら、鉄道だけではなくて、バスとも連携したお得な企画乗車券を検討してまいります。

(3) が基本方針3の分類でございます。

アですけれども、モビリティ・マネジメントの推進、こちらは内容発展としております。引き続き、モビリティ・マネジメントに取り組んでいくということなんですけれども、これまで主に取り組んできた園児、小・中学生を対象とした取組のみならず、高校生へのモビリティ・マネジメント、こちらのほうも実施を検討していきたいと考えております。

最後となりますが、イ、利用のきっかけとなる乗車イベントの実施、こちらは継続ということになります。コロナ禍の影響で取組を控えていた各種乗車イベントがございます。地域イベント等とも連携しながら、再始動していきたいというふうに考えております。

続いて、お手元に資料5を御準備いただきたいと思っております。

議事4号、令和5年度の協議会の歳入歳出予算案についてということでございます。

こちらは、資料の上側が歳入で、下半分が歳出ということで整理をしております。

上の歳入の予算でございますが、令和5年度の予算額1,600万円、それから、3繰越金、4諸収入ということで、科目存置ということで置いておまして、合計の予算が1,600万2,000円ということでございます。

こちらの1,600万円という金額ですけれども、こちらは神戸市、三木市、小野市、それから、神戸電鉄様の4者、掛けることの400万円ということで、1,600万円。昨年度、令和4年度は、計画策定がございました。その関係で神戸電鉄様の負担金を230万円としておりましたので、昨年よりも金額が増えています。従来どおりの予算取りということになります。

下半分、歳出の部分ですけれども、1、令和5年度予算額、運営費でございますが、40万円、それから、事業費ということで1,560万円、3、4、返還金、予備費ということで、科目存置の金額を置いております。合計で1,600万2,000円ということでございます。

こちら昨年の予算を見ていただくと、金額が違ってはおりますけれども、昨年は計画策定がございました関係で、運営費のほうの一部を2の事業費の計画策定のほうに繰り入れていた関係で、令和4年度と予算取りの金額が変わっておりますが、こちら従来どおりの予算の取り方ということで、運営費40万円、事業

費1,560万円ということで予算を置いております。

ひとまず、説明としては以上となります。

○会長

ありがとうございました。議事3号、4号の説明がありました。

これについても御意見、御質問がありましたら、挙手にてお願いをいたします。

はい、どうぞ。●●さん、どうぞ。

○●●委員

神戸市の●●です。

栗生線活性化に向けて、いろんな取組というのを総合的にやっていかないといけないというのは、そのとおりかなと思ってます。

その中で1つだけ、自転車というのも一つの有効なツールになるんじゃないかなあと思ってまして、実は半年前に神出山田自転車道、あれの端から端まで行ってみたんですけども、本当に気持ちのいい道で、やっぱり、サイクリングされるかたに何人かすれ違いました。そういう意味では、サイクルトレインっていうのも一つの有効な利用者の新たなニーズというのを掘り起こしていくツールになるんじゃないかなというふうに感じています。

その中で、昨年度については、この協議会の予算の事業として臨時列車という形で運行していただいています。

ただ、今後、その事業の継続性ということを考えてときには、やはり、その臨時列車を毎回というのではなくて、平常、通常の列車の中に自転車を積めるみたいな検討なんかも、ぜひちょっとお願いできたらなあと思うんですけども、そのあたりはいかがでしょうか。

○事務局

どうでしょう、神戸電鉄様。

○●●委員

神戸電鉄の●●でございます。

今、おっしゃっていただいているように、サイクリングブームであったりということで、サイクルトレイン、特に、我々は、もう少し地方のローカル鉄道では、そういうふうなのが盛んにやられているのを、我々もいろいろみんな勉強しているところであります。

そういう意味では新たな人を呼び込むのはサイクルトレインが一つの案かなと思ってまして、いろいろな勉強はしているんですが、いざ実施、やろうとしますと、いろんな課題があるのかなと思ってます。

まず、自転車を持ち込もうとしたときに、私どもの駅には段差も含めていろんなところが狭いとかいうようなことがあって、我々はホーム上の安全等を考えて、少しそのあたりについて、御利用客のお客様とかを含めて、そういうのが正常化しないと、御理解を得られないと、なかなか難しいなというようなことが頭の中に、まず、浮かぶことであります。

併せまして、電車に今度は乗っていただいたときに、自転車というのを、御承知のようにアップダウン、カーブもあるので、いろいろとマジックテープ等で車

内に留めたりとかいうようなところでやっておられる社さんもおられておまして、そういうなことも我々もイメージをしながら検討をしたりするんですけど、なかなかいろいろと車内の安全とかいうようなことになると、ちょっと、いわゆるサイクルトレインをやっておられる会社さんと比べると、うちの会社はまだお客さんのある時間帯にはたくさん乗っておられるんで、ちょっと、そのあたりのところも含め、やはり進めていくには乗り越えていかなきゃならないハードルがあるのかなあというふうに思っています。

そういう意味で、以前からちょっと臨時列車でもって、いろんな検証をしながら、安全とか実際の運行面について検討を進めさせていただいているところであります。

引き続き、サイクルトレインは一つの魅力でもありますんで、検討は進めていきたいと考えています。

○会長

これ、先般、私ども、兵庫県内の市長と町長らと知事をはじめ、県の幹部が集まる会議がありまして、JR加古川線が非常に今クローズアップされてまして、その利用促進と維持のためにも、この加古川線ですね、JRについてもレンタサイクルをぜひということ、あれは、西脇の市長さんが強くおっしゃってまして、県にもバックアップしてくれという話もありまして、西脇の市長さんは実際に現場を見に行かれたということもおっしゃってましたので、例えばですけども、当然、安全性は保たないといけませんので、まず、限定的に、例えばレンタサイクルをやる。たまたま今、三木駅にもできましたけど、例えば三木駅から始めるとか、例えばですけどね、できそうなところからでも、また、御検討もいただければというふうに思いますので、また、よろしくをお願いします。

ほかに御意見等がありますでしょうか。

神姫バスさんはたまたま来られてませんが、今、三宮から吉川に行くバスも、もう本当に一部ですけども、レンタサイクルとは言いませんが、自転車が乗れるようになっていますんで、利用促進、乗客を増やすという意味でも、また、電鉄さんのほうでも御検討いただければと思います。

ほかに御意見はございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

○会長

これについても承認をいただく必要がございます。

それでは、採決を採らせていただきます。

議事3号、4号につきまして、御承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

ありがとうございます。

では、承認をいただきましたので、3号、4号は承認をされました。

続きまして、報告事項に入ります。

まず、粟生線の利用状況ということで、神戸電鉄様、よろしくお願ひいたします。

○●●委員

それでは、資料の6に基づき、御説明させていただきます。

まず、1ページ目を御覧いただきたいと思えます。

年度別での実利用者数の推移を表しておりまして、今からグラフの下に書いているところを読み上げさせていただきます。

2022年度の年間実利用者数は約673万人となり、新型コロナウイルス感染症の影響により減少しておりました前年度に比べ、約46万人の増加、プラス7.3%となっております。2022年につきましては、第8波の影響があったものの、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の発令がなかったこともあり、この後のページを御覧いただきますが、月ごとの数字を見ても年間を通してほぼプラスで推移いたしました。

しかしながら、コロナ前と比較すると111万人の減少と、マイナス14.2%という大きな減少となっているのが実情でございます。

2022年12月までの神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画でうたっていたとおりでありました目標値であります850万人に対して、177万人の未達という状況でございます。

なお、2022年12月末に決定した新計画では、目標値700万人となっておりますので、これと比べますと27万人の未達という状況でございます。

新型コロナウイルス感染症の状況からいわゆるV字回復ということにはなっておりません。回復ペースは緩慢であり、コロナ前の元に復することは困難であるというふうに見込んでおります。

続きまして、資料2ページ、3ページを御覧ください。

2022年度の月別の利用者数の推移でございます。

前回の会議では11月までの数値を御説明いたしましたので、ここでは12月から3月までの数値を追記させていただいております。

2022年度の1月から3月ですが、前年度2021年度の同時期にはちょうどまん延防止等重点措置が発令されていたことにより、前年度比は反動により大きく増ということで、ここではプラスになっているという状況でございます。

そういう意味で少し、1月の前月の12月につきましては、2022年度は第8波による感染拡大が騒がれ、対前年度比マイナスという状況でございます。

2019年度の3月には国内でコロナ感染の影響が出始めていたため、2022年度3月は、2019年度、下の表で行きますと、一番下段の右下でありますけど、2019年度比においてもプラスとなっております。定期外の回復に比べ、定期の回復が悪い状況でございます。

続きまして、資料4ページを御覧ください。

下の表の右の欄ですが、各市の構成比率を記載させていただいております。

11月までにおきますと、11月までは神戸市では46.3で、全体では46.8、三木市内においての比率は11月までは36.5でございましたが、今は36.4、小野市内の比率につきましては、11月までは17.2で、現在、16.8という状況でございます。

続きまして、資料5をお開きください。

これは、2022年度で比較した増減表になっております。

過去の会議等で御報告させていただいている部分と重複しますが、まず、御覧いただきますと、木津駅の増加率がプラス7.4ということで、これは昨年6月にサントリーレディースオープンが3年ぶりにギャラリーを入れて開催されたことにより、大きく増加したことが大きな要因でございます。

次に、三木市内におきましては、三木駅がプラス11.4%となっており、コロナからの回復もあります。2022年3月に三木駅舎が新しくなったことにより、人流が増加したというふうに考えております。

最後に、樫山駅の増減ですが、マイナス4%となっております。これにつきましては、以前から外国人労働者のかたが、たくさん利用が多かったんですが、コロナにより外国人のかたがなかなか国内に入ってくられない。また、取り合い等があったということで、外国人の利用者が減ったというふうに見ております。

続きまして、資料6別紙を御覧ください。

これは、緊急事態、まん延防止等重点措置が発令されたときの御利用者数の推移を表しております。いわゆる発令されると、顕著にその減少が見て取れます。

資料6別紙2、棒グラフを御覧ください。

これは月別に年度ごとのお客様の推移を表したものでございまして、2019年度が青色、2020年がだいたい色、2021年が灰色、2022年が黄色、2023年が赤色というように色分けさせていただいております。

まず、3月の表を見ていただきますと、2019年と2020年に大きく変化いたしております。4月、5月、やはり、第1回の緊急事態宣言、第3回の緊急事態宣言等が発令されたということも含めて、大きく変化いたしております。

年度別で見えますと、徐々に、2021年、2022年ということで、お客様の回復傾向が棒グラフ上で見て取れます。

以上で資料の説明を終わらせていただきます。

あと、最後でございます。資料にはございませんが、さきほど、冒頭でもちょっと御紹介ありましたように、私ども、この4月から鉄道駅バリアフリー料金という形でもって、通常の運賃に対して10円加算し、通勤定期も。通学は加算しないということで周知させていただいております。これにつきましては、やはり、できるだけバリアフリーということを推進していきたいということでございまして、そういう形で御利用の皆さんにお金をいただいているということで進めております。

本年度につきましては、特に、粟生線では障がい者のかたにということで、志染駅に点字で駅構内を案内する触地案内板という、手で触って分かるというのを設置する予定でございます。

次年度以降につきましても、バリアフリーということでホームの段差解消とか、エレベーターでも更新等はしていくところもありますので、その辺のところを、今現在、計画をしているところでございます。

神戸電鉄からは以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

このことについて、何か御意見、御質問がありましたら、また、挙手にてお願いをいたします。

はい、どうぞ。マイクが行きます。

○●●委員

兵庫県です。

今の分析表、きれいにいろんな指標が整っていていいなあと思ったんですけども、まず、3ページのほうで、合計のところの定期と定期外のところなんですけども、おそらく、コロナ前と今現在はどうなっているのかという傾向を見るときに、一番下の対2019年度増減率で定期がマイナス15.8%と、定期外が12.1%というふうになっています。コメント欄には、数値的には定期の回復状況が悪いという状況なんですけども、仮にリモートとかあった場合は、その定期を会社とか、その辺のところを支給をしないという状況にあるとしたら、それは定期外のほうでチケット販売とか、個々に単発で行っているというふうに思いますので、こちらのほうに若干移っているのではないかなということなんで、ほぼだいたい同じぐらいの傾向にあるのかなというふうに思ってますのと、この年度ごとのA3の表ですね、これで見ましたら、当然、宣言があつて、コロナが5類に移ったということで、5月8日以降ということですので、赤が順調に伸びていて、実際どういうふうな動きをするのかというのは、これからかなというふうに思ってますので、皆様がたが思うよりは、利用がコロナ前からの性格が変わってしまって、落ちてしまうというふうには、まだ早計には言えないのではないかなというふうなことが、ちょっと見えているかなというふうに思っていますので、若干希望が持てるのではないかなというふうな考えを持っています。

以上です。

○会長

ありがとうございます。

たしかにそのとおりでもありまして、5月8日以降、どう数字が出ていくかということは、見守っていつて、次の会議でも、また、御報告もいただければと思っております。ありがとうございます。

ということは、逆に言いますと、このさきほどのP5のサントリーレディースで7.4増えたということは、今年も来週ありますので、今年は増えないという推測ということになる。逆に言うと、そんなイメージを持てばいいですね。

○●●委員

変化分としては、今まではそういうギャラリー、駐車場がなかったんです。それが全部ギャラリーバスに乗って、木津若しくは谷上からということになりますので、あとは4日間のプレーで、これ、よく言われますのは、有名な選手がどれだけ残るか残らないかによって、すごくお客さんの流れが変わってくるのも実情かなと思います。

○会長

ありがとうございます。

御意見等は、ございますでしょうか。

○●●委員

あと、すみません、1つ。

○会長

どうぞ。

○●●委員

さきほどおっしゃっていただいていたように、定期につきましては、やはり、テレワーク等でもって出勤日数が減りますと、定期外という形に変わるということは見て取れるかなと。

ただ、現実的にどれだけの割合がそうなったかということ、なかなかつかむことができない状態です。併せまして、テレワークでもう少し我々の神戸電鉄沿線に移っていただいているかたがどれぐらいあるかということ、なかなか我々ちょっと把握するのが難しい状況などがございます。

現実的に我々はやっぱりもう少し戻るというふうなことを期待しつつも、鉄道各社のいろんなデータを見ますと、数値的にはなんぼかというのはなかなか難しいですけど、元に戻るといのは厳しいという部分があるのかなあと。私どもの沿線そのものが御承知のように少子高齢化、全体が少なくなっていますんで、年度別に少し逡減状態である。その辺のことを含めながら、我々もいろんな安全輸送のためにどういうふうな施策を進めていかなければならないかというのを、いつもちょっと懸念しながら検討しているところでございます。

○会長

ありがとうございます。

ほかに御意見等がございましたら、挙手にてお願いをいたします。

(「なし」の声あり)

○会長

ないようでしたら、次に移らせていただきます。

報告事項2ということで、さきほどもお話がありました三木駅前について、これは事務局からですかね、報告をお願いいたします。

○事務局

資料7でございます。

神戸電鉄三木駅下り駅舎及び駅前広場（ロータリー）のひょうご県民ユニバーサル施設の認定についてということでございます。

三木駅の整備に当たりましては、設計段階から高齢者、障がい者及び乳幼児などの子連れのかた等に配慮するために、県の福祉のまちづくりアドバイザーによるチェック&アドバイス制度というものがございまして、そちらを活用しまして、県に登録されたアドバイザーの派遣を受け、建築、福祉等に関する専門的な見地に基づいて利用者目線での整備に取り組みました。

その結果、このたび、この施設がひょうご県民ユニバーサル施設に認定されたということでありまして、御報告をさせていただくということでございます。

認定日としましては、令和5年3月24日ということです。

主な評価内容ということで掲げておりますが、例えばですけれども、兵庫ゆずりあい駐車場の路面塗装がよく目立つでありますとか、黄色の誘導ブロック、こちらを灰色で縁取りをして視認性を高めているというようなところなどを評価いた

だいて、このたびの認定に至ったということでございます。

1 ページめくっていただくと、施設の概要ということで、さきほど御説明させていただいた、例えば一番上のほうの写真ですけれども、兵庫ゆずりあい駐車場の路面塗装がよく目立つ、あるいは、誘導ブロック、こちらのほうの縁取りの写真を載せておりますので、御覧いただけたらと思います。

簡単ではございますが、以上とさせていただきます。

○会長

ありがとうございました。

この件につきまして、何か御意見等がありましたら、挙手にてお願いいたします。

いいですか。まとめて。

では、もう一つ行きましょうか。

報告事項3、レンタサイクルも続けて事務局お願いします。

○事務局

続いて、資料8、三木駅におけるレンタサイクル事業の開始ということでございます。

粟生線や路線バスを利用して三木駅まで来られた来訪者が、より一層広範囲のまちの魅力を楽しむことができるよう、三木駅におきましてレンタサイクル事業を開始しました。

これは三木市の事業ということでございまして、三木市観光協会さんのほうへ委託をさせていただいております。

4月29日から開始しておりまして、利用料金、利用時間は御覧のとおりでございます。

利用方法につきましては、観光協会のほうの窓口あるいは電話での予約ということですが。

自転車としては、電動アシスト自転車3台、それから、シティーサイクル3台ということで、写真を掲載させていただいております。

ひとまず、説明は以上とさせていただきます。

○会長

では、さきほどのユニバーサル施設の認定、レンタサイクル事業ということで御説明をさせていただきましたが、これについて何か御意見等がありますでしょうか。

はい、どうぞ。マイクが行きます。

○副会長

この三木駅のレンタサイクルについては、私らもちょっと注目しておりまして、一応、どう動くのかというような状況を確認させていただいて、以前からレンタサイクル、粟生駅でやるのか、小野町駅でやるのか、電鉄小野駅かというのを、いろんなことを検討していたんですが、ちょっと歩道が狭くて危険やということもあるし、どういう成果に結び付くのかということ、ずっと確認はしてたんなんですが、一応、三木駅のこの取組を見させていただいて、その状況を見て考えていきたいというふうに考えております。

○会長

ありがとうございます。

また、では、三木市においても、なにかありましたら、小野市さんへ情報提供もしていただければというふうに思います。

ほかに御意見、御質問はよろしいでしょうか。挙手にてお願いいたします。

どうぞ。マイク行きます。

○●●委員

マイク、要らん。

○会長

ああ、要らない。

○●●委員

レンタサイクルは、いずれ台数を増やす計画、予定はあるんですか。

○会長

事務局、どうぞ。

○事務局

そうですね。まだ事業が始まったばかりでございますので、利用状況を見ながら、利用者の反応を見ながらということになるのかなあと、そういうふうに考えています。

○会長

違ってたら、また、訂正してもらっていいですが、三木駅には置かせていただいているんですが、あとどこでしたか、吉川の山田錦の館、あと、道の駅、違うか、別所か、別所ゆめ街道。

○事務局

別所ゆめ街道に試験的に置いたことはあるんですが、今は置いてない。

○会長

ということは、三木駅と吉川の山田錦の館に置かせていただいております。

○●●委員

ちょっとグループで行こうというたら、3台、4台ではちょっと少ないかなあと。けっこう今サイクリングブームやからね。僕らの知り合いでも7、8人やから。そういう点でちょっと台数がどうかかと。

○会長

ありがとうございます。今後、そういう検証をして、もちろん必要があれば増やしていくことになろうかと思いますが、よろしく願いいたします。

どうぞ、御意見がありましたら。

よろしいですか。

(「なし」の声あり)

○会長

では、この報告事項については、これで終わらせていただきます。

ここであらためて、これまでの議事事項、報告事項、説明等をさせていただきます、御意見をいただきましたが、あらためて全体を通しまして、また、この件以外でも何かありましたら、お気楽に挙手にて御質問、御意見いただけましたらと

思います。

いいですか。何か●●さん、いいですか。

○●●委員

いい。いい。

○会長

よろしいですかね、皆さん。

(「なし」の声あり)

○会長

では、ないようでしたら、マイクを事務局に返します。

○事務局

仲田会長におかれましては、会議の進行をしてくださいまして、誠にありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、協議会の副会長であります小野市の小林副市長に御挨拶をお願いしたいと考えております。

小林副会長、よろしく申し上げます。

○副会長

皆さん、今日は公私ともお忙しい中、活性化協議会でいろいろ議論いただきました。ありがとうございました。

今日、あらためていろんな御説明をお聞きして、取組もいろんな取組をして、沿線各市、取組が進んでいるなどというふう感じたところでございます。

小野市のことになりますけども、今日も説明があったんですが、市民が小野駅に降りてタクシーがないということをけっこう言われまして、「そんな駅はあかんやろ」という意見が出てきて、タクシー業界を支える必要があるということで、運転手はいない、経営が成り立たない、客がないというようなことがあったので、そういうことも含めて「らんらんタクシー」ということで、2分の1を市が補助しようということで、一応、1,000万円程度の予算を置いて、けっこうこれが伸びてきまして、登録をされるかたが多くて、病院以外にも買物、それから、駅にタクシーを利用して、登録してもろうたら半額助成で行けるということで、これでタクシー業界も潤うということを聞きましたんで、駅にタクシーがなくなることはないだろうというような、それぞれのポイントに合わせて事業を展開していきたいというふうに思います。

今日には間に合わなかったんですが、実は、この月曜日の29日に流通科学大学と小野市が観光をターゲットに連携協定を結びました。流通科学大学には観光学科というのがございまして、そこと連携協定を結んで、その主任教授を観光のアドバイザーでお迎えして、いろんな提案をいただこうかなと。観光については、小野で桜づつみもやりましたし、今は、ひまわりの丘公園の遊具も、非常に遊具数も多いんです。私もこの活性化協議会の副会長ということで、神戸電鉄にいかに乗ってきていただけるかということに対して、いろんなアドバイスをいただこうかなと。観光学科の学生がもっと入ってくるというようなことも、もう既に打合せをしておりますので、そういうことを含めて、これからの観光は小野だけでも成り立たないので、広域で観光に取り組んで、北播磨の中で観光をもっと

活性化して多くのかたに来ていただく、そういうことをターゲットにして取組を進めていきたいと。まだ、成果は1年先、来年度に発表できるかなと思うんですけど、どんな提案が出てくるか、どんな意見を学生が言うてくれるか、それに対して市民がどう考えるかというようなことも踏まえて、取組を進めていきたいというふうに考えております。

今日は、皆様がた、お忙しい中、長い間、御議論いただきまして、ありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、これもちまして第49回神戸電鉄粟生線活性化協議会を閉会いたします。

次回の協議会の開催につきましては、8月を予定しておりますので、何かと御多用のところ恐縮ではございますが、その際には御参集を賜りますようよろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、今後とも粟生線沿線地域の活性化への取組などにつきまして、なにとぞ御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

本日は、誠にありがとうございました。